

---

# 哀川くんの吉井明久戦記

駄猫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

哀川くんの吉井明久戦記

### 【Nコード】

N9133V

### 【作者名】

駄猫

### 【あらすじ】

スランプ改善リハビリ作ですw

原作明久が主人公がいい！とか、明久が賢いのは可笑しいと思う人は即プラウザバックよろしくお願いします。この作品は最初に描いた通りスランプ改善リハビリ作なんで、何時更新する・・・とか決まってませんw  
え〜と、指摘（台本書き、改行以外）を受け付けています！どうぞよろしくお願いします。

## 第一巻プロローグ（前書き）

はい！どうも駄猫です

あらすじにも書いたとおり、スランプ改善リハビリ作なんで無茶は出来ませんw

指摘（台本書き、改行以外）を受け付けています！

では、どうぞ！

## 第一巻プロローグ

・・・あ、どオも吉井明久でエス  
ン？哀川拓也じゃねエのかつてエ？

あ、それなンだがよオ・・・朝目覚ましたら赤ン坊になっててよオ・  
・

本気でビックリしたぜエ・・・  
ちゃんとバカのフリはしてから大丈夫なンだがよオ・・・原作的  
な意味で

ビックリしたことに召喚獣の外見がよオ・・・元の俺の服装なわけ  
でエ

能力もそのままという大量虐殺召喚獣になっちまった訳なンだ・・・  
し・か・も・・・観察処分者という・・・人間にまで・・・  
まア考え過ぎはいけねエなア・・・

さて、今日は試験なンだがよオ・・・

どうせだつたらこのままサモンサーヴァントで桃色ブロンドに召喚  
された・・・くはないなア

ン・・・凜に召喚かア？

・・・中々いいかもなア・・・アイツだつたらよオ・・・

まア、ツンデレなのが偶に傷なンだが

雄二

「おい、明久・・・今日の試験大丈夫なのか？」

明久

「うん、大丈夫だよ雄二」

え？しゃべり方が変だつてエ？

気にすんなア・・・俺だつてやりたくてこういう話し方じゃねエン

だよオ・・・

姉貴に話し方変えさせられちまったんだよ・・・はア、メンドクセエ・・・

だが、心の中ではずっとこのしゃべり方で行くぜエ

・・・つつウかもウさア姉貴が居るとき以外話し方このままでいいんじゃないエかア？

よしそオしよオ・・・メンドクセエし・・・

翔子

「・・・明久」

明久

「うん？何かな？翔子ちゃん」

あア・・・癖はなおらねエモンだとうけいれよ・・・  
因みに容姿は明久をつり目にしてシニカルな感じだぜエ

翔子

「試験がんばってね？」

明久

「モチロンだよ、翔子ちゃん」

俺がAクラスに入ったらどオなるか楽しみなんだがなア・・・

試験までエエエエエ・・・キングクリムゾンツツツ！！

試験なウ・・・

さて、大分と簡単なんだがよオ・・・

メンドクセエ・・・俺は原作的にFに行かなきゃなんねエだろオし・

チラツと見ると・・・転生者くせエ変な金髪オッドアイがいる・・・  
なんか起きたらアイツに任せよう・・・そオしよオ・・・

- カリカリ・・・ -

瑞希

「はあはあ・・・」

- バタツ -

明久

「姫路さん!？」

先生

「途中退席での退席は・・・無得点扱いになるがそれでいいかね  
？」

明久

「ちよっ先生!？具合が悪くなって退席するだけでそれは酷いじゃないですか!？」

・・・この言葉遣いがつらめしぜエ・・・

先生

「ルールはルールだ」

金髪

「なら、お」

明久

「ツチ、テメエ・・・何言ってやがんだア？なんなの？バカなの？死ぬの？つか死ねよ

腐れ外道がよオ・・・ふざけてんの？まじウゼエ・・・」

先生

「貴様ツ・・・バカのくせに・・・先生に何て言葉遣いだ！？」

明久

「はア？先生は尊敬出来る・・・たとえば鉄人みてエなのを言うんだよオ・・・

テメエは尊敬できつかよオ・・・病室で試験とか考えねエの？」

先生

「うるさい！！！」

・バキツ・

明久

「（ニヤツ）・・・コレで体罰決定ですねエ？先生エ？」

鉄人

「五月蠅いぞ！！・・・どうしたんだ？吉井」

明久

「いや、其処の監督の先生に殴られただけですよ？」

此処にいる全員が証人ですよ・・・唯僕は姫路さんがしんどそうで、

保健室でテスト受けさせれるんじゃないですかア？と聞いただけですし」

鉄人

「ふむ・・・先生、後で職員室へ来てください  
姫路はどうしたいんだ？」

瑞希

「はあ・・・はあ・・・」

保健室で受けさせてもらえますか？」

鉄人

「分かった」

・・・コレで一件落着と言いたいンだが・・・

隣で金髪オッドアイが睨んでくるンだが・・・どうしたらいいンだろオナア？

- 笑えば良いと思うよ -

・・・変な電波が来たなア・・・無視で行こう・・・  
はア鬱だわア・・・



## 第一巻プロローグ（後書き）

あらずじ、前書きで書いたとおり、指摘（台本書き、改行以外）を受け付けています！

どうぞ気軽に感想、指摘お願いします！

第一問 ここから既に原作ブレイクしてたんだなア・・・by明久（前書き）

翔子

「・・・ねえ？」

雄二

「ん？なんだ？」

翔子

「・・・さっき雄二が話していた大化の改新って何時のこと？」

雄二

「三年生にもなって、まだそんなことも知らないのか？翔子は馬鹿だな」

明久

「馬鹿は無いでしょオオ・・・雄二・・・」

翔子

「・・・・・・・・励ましてくれるのは明久だけ」

明久

「しかもオオ、まだ習ってねエからなア？」

雄二

「覚え方は簡単だぞ？『無事故の改新』で覚えるんだ」

明久

「あア．．．なるほどなア」

翔子

「．．．．．無事故？」

雄二

「忘れるなよ？大化の改新は無事故でおきたから．．．」

翔子

「うん」

雄二

「．．．．．625年だからな」

翔子

「．．．．．わかった、きちんと覚えた」

雄二

「よし、忘れるなよ」

明久

「．．．雄二．．．テメエも馬鹿だろ．．．」

雄二

「なんだと？」

明久

「無事故だから．．．645年じゃボケ」

翔子

「明久……大丈夫ちゃんと覚えた、絶対に忘れない」

明久

「絶対に忘れンじゃねエぞオ？」

第一問 ここから既に原作ブレイクしてたんだなア・・・by明久

俺らが文月学園に入学してから二度目の春が訪れた

校舎へと続く坂道の両脇には新入生を迎える為の桜が咲き誇っている  
別に花を愛でる程雅なヤローでもねエけれど、その眺めには一瞬目を奪われる

でも、それは一瞬のコトだ、今俺の頭の中にあんのは桜じゃなく・・・新しいクラスのことなんだが・・・

多分Fクラスだろオ・・・テストになんて書いたと思う？

オールひらがな安定だったぜエ

鉄人

「吉井、遅刻だぞ」

明久

「あ、鉄人じゃないですか、おはようございます」

この目の前に居る浅黒い肌をしたスポーツマンのよオな先生を、俺たちは敬意と畏怖を込め鉄人と呼んでいる

鉄人

「いま、思い切り鉄人とよんだらう」

明久

「まっさかア、言ってますんよ28号先生」

鉄人

「・・・お前には何を言っても無駄だったな・・・  
それにしても、普通に『おはようございます』じゃないだろう」

明久

「あ、すみません・・・ええと・・・今日も肌が黒いですね」

鉄人

「・・・・・・・・お前は謝罪の言葉より俺の肌の色の方が重要なのか？」

明久

「ああ、そっちでしたかすみません」

鉄人

「まったくお前というヤツは・・・・・・・・いくら罰を与えても全然懲りないな」

ため息混じりでいわれたらよオ・・・俺が遅刻常習犯みてエじゃねエか・・・

あ、遅刻常習犯だったぜエ・・・原作とは違い色々やらかしてるかなア・・・

鉄人

「ほら、受け取れ」

明久

「あ、どオもでエす」

因みに、こんな面倒なやり方でクラス編成を発表してるかつつと、

世界的にも注目された高校なモンで、何故注目されてっかつウのは、最先端システムを導入してっからだァ・・・分かったかァ？

鉄人

「それにしても、すまなかったな」

明久

「何がですかァ？」

鉄人

「貴様ならどうせFだろうが・・・」

明久

「何気にヒドイですよォ!？」

鉄人

「なら、何処の馬鹿がテストの答案全部平仮名でかいた？」

明久

「僕ですが？」

鉄人

「はぁ・・・それはともかく、あの先生のコトだ」

明久

「処分はどうなったンですかァ？」

鉄人

「辞職だ・・・体罰をしたということだな・・・」

明久

「まア、良いですよ・・・ンじゃあ頑張ってくださいよ」



第一問 ここから既に原作ブレイクしてたんだア・・・by明久（後書き）

バカテスト - 化学 -

問い

調理のために火にかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。

このときの問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例をひとつ挙げなさい

姫路瑞希の答え

問題点・・・マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応する為危険であること

合金の例・・・ジュラルミン

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目という引っかけ問題なのですが姫路さんは引っかけかりませんでしたね。

土屋康太の答え

問題点・・・ガス代を払っていなかったこと

教師のコメント

其処は問題ではありません。

吉井明久の答え

問題点・・・マグネシウム鍋で料理しようと考えたこと

合金の例・・・ステンレス

(ジュラルミン鍋は、料理しているうちに、どんどん腐食していきますよ?)

教師のコメント

・・・痛い所ばかりをつきますね・・・

第二問・・・俺Fクラスを舐めてた・・・

明久

「・・・・・・・・なんなんだろオナア、このバカデカイ教室は」

去年は殆ど来たことがねエ三階に足を踏み入れると、

まず目の前に現れたのは通常の五倍はあるオかという広さを持つ教室だった・・・・・・・・

もしか、コレがAクラスなんだろオか・・・・・・・・

興味本位でちよつと窓から覗いてみたら

洋子

「皆さん進級おめでとうございます

私はこの二年A組の担任の高橋洋子です、よろしくお願いします」

先生居るからもう去ろうか・・・と思った瞬間、

翔子

「・・・・・・・・霧島翔子です、よろしくお願いします」

・・・・・・・・頭いいのは知ってたんだがよオ

まさか代表だとは思わなかったぜエ・・・・・・・・

俺の幼なじみがこんなに頭良いはず・・・・・・・・はあるか・・・・・・・・

・

原作なんてもオ全然覚えてねエわア・・・唯一覚えてたのは明久

バカと主要キャラ数人だけだなア

・・・・・・・・すまねエ嘘ついた秀吉しか覚えて無かった

ンだよオ・・・どうして翔子ちゃん俺をみてんだろオナア・・・・・・・・

・

まアいいかア

．．．．．ンだア？このＡクラスとは完全にかき離れた教室はよ  
オ．．．．．

歩くごとに軋む腐った畳に綿のない座布団

夏には嬉しい隙間風が舞い込むつぎはぎの窓

さらには足の折れかかった芸術的な卓袱台

巫山戯てンじゃねエエエエエ！！！！

学費は全員平等なンだから！普通の公立学校みたく普通の教室にし  
てくれたらいいだろオ！

メンドクセエが入るかア

明久

「すみませ〜ン、遅れましたア」

雄二

「はやく座れウジ虫やろう」

明久

「．．．いい度胸してるね．．．雄二クウウウウン？」

雄二

「いや、他の誰かかと思って！！」

明久

「まア、それならいいンだけど．．．．．ンで、雄二は何をして

「の？」

雄二

「先生が遅れているらしいから・・・教壇に上がってみた」

明久

「先生の代わりってことは、雄二が代表なんだ・・・  
ンで、さっきから睨んでくる変な金髪チャラ男は殴っていいの  
かな？かなア？」

雄二

「やめとけ」

金髪チャラ男

「ツケ・・・」

始まるまでポケモンしとくかア

因みに俺のパーティはラルトスとミニロップとカイリキーとスバメ  
だぜエ

ポケモンBW？ナニソレ？

まだ、プラチナ迄だぜエ

殿堂入りしすぎてシロナさん涙目なんだぜエ・・・ククク  
まア、分かる訳ねエがなア・・・

・・・おっと俺の出番かア・・・

明久

「ンン！えエ・・・吉井明久だア

まア、僕のことは『ダーリン』とでもよんでね」

『『『ダアアアアリイイイン！！！！』』』

明久

「うお！？つちよすいませんでした・・・普通に吉井か明久でオツケーですウ！」

・・・ドンマイ俺・・・

まさか、こんなにバカばっかだとはおもわなかったぜエ・・・

瑞希

「あの、遅れて、すいま、せん・・・」

あゝ・・・やっぱムリだったか・・・

体調には勝てねエよなア・・・

駄猫も結構体調崩しやすいからわかるらしいぜエ

第二問・・・俺Fクラスを舐めてた・・・（後書き）

どうもゝ若干病弱な駄猫ですw

夏休み・・・終わっちゃいました・・・

泣きたい・・・

まあ、取り敢えずがんばります！では！

### 第三問 ニコボってリアルだとキメエ・・・

瑞希

「あの、遅れて、すいま、せん・・・」

『えっ?』

福原

「丁度よかったです、今自己紹介しているので姫路さんをお願いします」

瑞希

「は、はい!あの、姫路瑞希と言います、よろしく願いします・・・」

小柄な身体をちぢこめるように声をあげる姫路さん  
アレだな・・・紅一点だな・・・  
でも全員が驚いてるのは其処じゃなく・・・

Fクラス生徒A

「はいっ!質問です!」

瑞希

「あ、は、はい、なんですか?」

あアゝ見事に驚いてンなア・・・

Fクラス生徒A

「なんで此処にいるんですか?」



聞きようによつては失礼だよなア・・・

本当によオ・・・オレだったら聞いた次の瞬間切れてンだろオナア

・・・

うん、きつと切れてる・・・

瑞希

「そ、その・・・振り分け試験の最中に高熱がでてしましまして・・・」

Fクラス生徒A

「そう言えばオレも熱（の問題）が出た所為でFクラスに・・・」

Fクラス生徒B

「ああ、化学だろ？アレは難しかったな」

Fクラス生徒C

「オレは弟が事故にあつたって聞いて実力出し切れ無くって」

Fクラス生徒D

「黙れ一人っ子」

Fクラス生徒E

「前の晩、彼女が寝かせてくれ無くって」

Fクラス生徒F

「今年一番の大嘘をありがとう」

・・・此処のクラス思った以上に馬鹿ばっかだな・・・  
アレ？頭が痛くなってきた・・・

はア・・・本気出してAクラス行った方が良かったかなア？  
偏頭痛が痛い・・・アレ？もう疲れたよ・・・ユウナッシュ・・・

瑞希

「き、緊張しました・・・」

明久

「あのさ・・・姫」

雄二

「姫路」

・・・コレは切れていいんだよね？  
皆はどう思う？・・・こういうときにすることは・・・

明久

「雄二イイ・・・？後で覚え時ヤガレ・・・」

雄二

「・・・すまなかつたアアツア！」

明久

「其れより姫路さんは身体大丈夫なの？」

瑞希

「は、はい・・・あのときはありがとうございました」

明久

「いや、いいんだよ・・・あの人が悪かったんだしね？」

瑞希

「ありがとうございます・・・」

・・・うゝむ・・・保護欲が・・・  
そオだ！

明久

「雄二ちよつと来て」

雄二

「・・・なんだ？」

- ドアの前 -

明久

「ずっと考えてた・・・つつウかコレの為に馬鹿のまねしてたんだけど・・・」

雄二

「やつぱりか・・・試召戦争か？」

明久

「いけるか？」

雄二

「オレも考えてたしな・・・」

明久

「・・・ならちよつとやりたいコトあるンだけど・・・いいかな？」

雄二

「・・・分かった・・・やってみろ」

明久

「ありがとう・・・さっきの分は無しってコトで貸し借り無しだよ？」

雄二

「ああ」

- 教卓 -

明久

「先生・・・試召戦争の話したいんで良いですかア？」

福原

「・・・わかりました」

明久

「ありがとうございます・・・」

雄二

「はぁ・・・久しぶりじゃねえか？明久とこうやって組むの・・・」

明久

「まア・・・楽しもうよ！」

雄二

「・・・ンッ！」

「テメエ達！Fクラス代表坂本雄二だ！」

「オレのコトは代表でも坂本でも、スキなようによんでくれ・・・」

「コイツは・・・」

明久

「吉井明久だよ・・・観察処分者だ・・・」

Fクラス生徒G

「観察処分者って馬鹿の称号じゃ無かったか？」

雄二

「コイツは別だ・・・」

「頭は世界中の何人もの天才が集まっても勝てないぐらいだ・・・」

「

明久

「そう言うこと・・・」

「ンで、皆に一つ聞きたいんだ・・・」

生徒達がゆつくりコツチを向いてきた・・・

明久

「Aクラスの設備は冷房完備でリクライニングシートらしいんだよ・・・」

オレがこういうと雄二がゆつくり教室を周りは始める

雄二

「それに比べて・・・」

かび臭い教室、古く汚れた座布団、薄汚れたちゃぶ台・・・」

明久・雄二

「・・・不満はないか？」

全員

「大ありじゃ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

・・・雄二が演説を再び初めたのを見てオレは教室を見回した  
・・・？アレなんだア？めっさニヤニヤしてンだがア・・・金髪  
チャラ男くん

姫路さんと島田さんも困ってるし・・・

やっぱ馬鹿ばっか・・・メンドクセエ・・・

明久

「金髪くん・・・二人とも嫌がつてるよ？（キモイし）」

金髪

「オレのイケメンさに嫉妬してんだな！」

明久

「はいはい、分かったから・・・  
島田さんと姫路さん巻き込まれる前に向こうに行って」

美波

「あ、ありがとう・・・吉井・・・」

瑞希

「ありがとうございます・・・」

金髪

「・・・何してくれてんの？馬鹿のくせに・・・」

明久

「（ブチッ）わかったから、嫌がってる子にナンパは止めようね」

おっと切れかけた・・・

・・・ン？雄二からのアイコンタクト？

ほ・ど・ほ・ど・に・し・ろ・よ

うゝむ

い・や・だ

でいつか・・・

金髪

「ウゼエんだよー！」

- ガシッ -

美波

「吉井!？」

瑞希

「吉井君!？」

雄二

「・・・ああ・・・終わったなアイツ・・・」

美波

「坂本!止めなくてもいいの!？」

雄二

「見ときな・・・アイツ・・・すんげえ切れてるぞ・・・」

明久

「はア・・・ほんとうにウゼエなア・・・インテリクンはよオ・・・」

さっさと手離せ三下・・・」

金髪



「!?(なんだこれ!?原作と全然違うぞ!?あの神も他に転生者は居ないって!?)」

明久

「・・・雑魚エのにつつかかな三下ア・・・  
オレにつつかかっていい三下はアイツだけなんだよ・・・殺すぞ?  
」

金髪

「っ・・・(コツチにはチートがあるんだ!)」

明久

「はア・・・だリイ・・・もつかい言わなきゃいけないエのかア?  
・・・さっさと離せ」



### 第三問 ニコボってリアルだとキメエ・・・（後書き）

駄猫くく制裁な次回ですが・・・

一更新出来なかった上に桜才戦記じゃ無いっていう・・・

拓也くくまアしょうがないだろ・・・親に止めろって言われまくったんだろ？

駄猫くくはア・・・

拓也くく取り敢えず次回予告だア

切れまくってるオレ・・・

駄猫くくどうなる？金髪くん

拓也くく名前はどくなってんだア？

駄猫くく一応決まってるけど出る前に居なくなるかもw

拓也くく・・・たしかにな・・・

駄猫くくま取り敢えずがんばります！では！

#### 第四問 アイアンクローってもの凄く痛いんだ・・・分かるかなア？

明久

「はア・・・だりイ・・・もつかい言わなきゃいけないエのかア？  
・・・さつさと離せ」

金髪

「脅しなんて効かないぞ！」

明久

「誰が脅しつったア？コレは命令だ・・・」

金髪

「な！？・・・テメエ誰に向かって！」

明久

「（Be kool・・・落ち着けEkoolになれ哀川拓也・・・  
もとい吉井明久）」

君だよ・・・何回も言わせないでくれるかな？」

金髪

「ンだとオ！？おれはな・・・  
ボクシングとキックボクシングとムエタイをしてんだよ！テメエ  
みたいなモヤシとはちげえ！」

明久

「・・・モヤシについては見逃すとして・・・  
テメエ巫山戯てんの？いっぱいやってたら強いとでも思ってたの  
オ？」

・・・テメエは馬鹿どころじゃ済まねエンじゃねエの？」

金髪

「う、うるせえ！」

- ヒョイツ -

明久

「はいはい隙しかねエよ！」

- ガシツ・・・ギチギチ -

金髪

「うがぁああああ！！痛い痛い痛いいた・・・」

- ガク -

雄二

「明久・・・なんつーかアイアンクローで気絶させるってドンだけだよ・・・」

明久

「ン？アレでもきちんとか減したンだけどねエ？

弱いねエ・・・翔子ちゃんのほオがもつと怖いよ・・・

いつの間にか・・・ね？分かるでしょ？」

雄二

「・・・なるほどな・・・」

美波

「吉井ってスゴイのね・・・」

瑞希

「本当にビックリしましたよ・・・でもケガがなくてよかったです・  
・」

康太

「・・・」

・  
ツンツン・

康太

「・・・気絶」

秀吉

「皆この状態はスルーするのじゃな・・・」

・・・常識人は秀吉と康太・・・泣けるな・・・  
え？俺自身はどオなのかって？常識人な訳ねエだろオが  
胸はるなってエ？とはいわれてもなア・・・  
だって英雄とタイマンはれンだぜエ？そこントコ考えたら常識を逸  
脱してンだろ

明久

「で、宣戦布告は誰にするの？」

雄二

「・・・明久いつt」

明久

「却下」

雄二

「頼む」

明久

「却下」

雄二

「嫌ならコレを翔子に」

・・・えエ・・・婚姻届なんであんだよ・・・  
しかも丁寧に印鑑も・・・  
あと、其れって俺に死ねっていつてるも同然だよなア？

雄二

「さて、どうするんだ？」

・ニヤリ・

明久

「行くよ！死にたくないよ！」

瑞希

「どうしたんですか？吉井くん」

美波

「どうしたの？吉井」

明久

「ストレスがマッハなだけだよ・・・  
ボクには仲間が居る・・・身体が軽い・・・もオ何も怖くない！」

康太

「・・・それは死亡フラグだ」

秀吉

「なんというか・・・」

- 宣戦布告は・・・フルボッコだったため・・・カット！ -

はア・・・疲れたア・・・  
あれもこれも全部雄二の所為だ・・・  
絶対やり返してやるウ・・・  
天上院に言っでやる・・・雄二が浮気してたっで言っでやる・・・  
そしてアイアンクローされちまえ・・・

あ、天上院つつうのは雄二の従姉妹のキンパツ美人・・・  
しかしドS・・・フルネームは天上院優佳・・・  
俺でさえビビった・・・幽香と優佳・・・ドSという共通点だなア

明久



「てな訳で行ってきたよ・・・（ボソ）後で覚えとけクソ雄二天上院に浮気したって言ってる」

おつとオ、くちから出ちまったア・・・  
氣イつけねエと・・・

雄二

「（ゾクゾクゾクウ）！？・・・よし、なら昼休みに屋上にてミ  
ーティングだ

康太、秀吉、姫路、島田、それと明久だな」

明久

「わかったよ」

第四問 アイアンクローってもの凄く痛いんだ・・・分かるかなア？（後書き）

駄猫くくはろろゝん！なんとか更新できました！

拓也くくなんだよ、その挨拶・・・

駄猫くくノリ？

拓也くく聞くなよ、メンドクセエ・・・

駄猫くく結局キンパツくん名前出る前にモブ化ww

拓也くく名前何にするつもりだったんだア？

駄猫くく霧夜 聖斗て名前

拓也くく・・・本編で出さなくてよかったなア

駄猫くくだねゝw

拓也くく次回はどうすんだア？

駄猫くくレッツゴーvsDクラスだよ・・・がんばります！では！

**番外編 霧島翔子の突撃隣の吉井さん！（前書き）**

何故か10000PVを超えたのでやってみますw

番外編 霧島翔子の突撃隣の吉井さん！

・・・初めまして霧島翔子です

今回は、明久の家にEr・・・じゃなくて、薄いh・・・でもなくて

取り敢えず明久がきちんと生活しているか確認しに行きます

鍵は玲さんにきちんと貰っているから入れるのです

と言うわけで一度インターホンを押します・・・明久がいたらまた次回です

- ピンポン・・・ -

大丈夫のようです・・・では、入ります

- キイイイ・・・ボタン -

翔子

「・・・お邪魔します」

取り敢えず目的の明久の部屋に行くまで彼を

何故好きになったか・・・と言うことを軽く説明しますね

先ず初めて出会ったのは7年前

私は転校生だったんです

・・・誰とも喋ることが出来なかった私に明久は話しかけてくれて、  
其れがうれしくて、私はドンドン明久に話しかけていったんです

そんなある日、雄二と明久が上級生に何か話しかけられてるのを見  
たんです

何か嫌な予感がしました・・・

その出来事があった日から数日・・・嫌な予感が当たったんです

忘れ物をしたことに気づいた私は教室に戻りました  
そうすると上級生達が明久と雄二の持ち物に落書きをしようとして  
いました

其れを止めるために「止めて!!」と言いました

すると彼らは「いつもアイツ達の近くに居る女子か」と言って

私を無視して落書きをしはじめようとしていました

だから私は飛びつきました

すると、上級生達は私に標的を変えました

頭が真っ白になりました・・・唯怖くて・・・

でも、そんなとき明久が来てくれたのです

それをきっかけに明久のコトがすきになったんだと思います・・・

・・・ちょうど明久の部屋につきました

と言うわけで、まずはベッドの下

・・・やっぱり無い・・・

次に天井裏・・・も無い

となると・・・あつた・・・やっぱりPCの後ろ

どんなのが好きなんだろう？

一冊目のは黒髪で巨乳・・・二冊目も同じく・・・

- 全部見終わるまでカット! -

コレが最後・・・

まさか30冊以上あるとは思わなかった・・・

明久の好みは黒髪で美人系で巨乳・・・

・・・コレはチャンス？

最後は・・・アルバム・・・

・・・だれ？この黒髪の美人二人とアルビノの男性・・・

男性の方は明久に似ているような・・・

- ガチャン -

明久

「お・・・あいてるつつウコトは翔子ちゃんが居るってコトか・・・

」

早く片付けなきゃって・・・

翔子

「きゃあ!？」

明久

「おっと、大丈夫？翔子ちゃん・・・ってその手に持ってるの・・・

」

翔子

「・・・エ・自主規制・だと思って見たらアルバムだった

みちゃいけないモノだったならゴメンなさい」

明久

「エロ本って・・・なんで探しているのかは分からないけど・・・」

翔子

「・・・なんで土下座しているの？」

あとは燃やすだけだから、大丈夫だよ？」

明久

「スイマセン！お願いだから燃やさないでエ！」

翔子

「・・・今回は私も悪いから見逃す・・・  
でも・・・つぎ増えてたら・・・わかってる？」

明久

「うん・・・あ、ご飯食べていく？」

翔子

「・・・お言葉に甘えさせて貰う」

明久

「わかったよ」

- 飯調理中なんでカット! -

明久

「・・・昼から暇だから、遊びに行く？」

翔子

「・・・え？いいの？」

明久

「うん・・・今日ぐらい勉強しなくても大丈夫だしね」

翔子

「・・・わかった着替えてくる」

明久が私を誘ってくれた・・・

コレはチャンス・・・告白・・・はむりだけど・・・



番外編 霧島翔子の突撃隣の吉井さん！（後書き）

駄猫くく次回、「番外編 翔子と明久と二人デート」

拓也くく俺の聖典が危なかったぜエ

駄猫くくお前でも持ってたんだな・・・

拓也くく男なら一冊や三十冊

駄猫くく一冊と三十冊って全然違うぞ！？あと、俺は持ってないぞ！

拓也くく・・・

駄猫くく・・・

拓也くく次回もよろしく頼むぜエ！

駄猫くく・・・強引にいったなア・・・

## 番外編 翔子と明久と二人デート

つうわけで吉井明久だア．．．  
いきなりでスマネエが．．．読者様画面の向こうのお前らは美人の幼なじみがいるってどオと思う？

嬉しい？k t k r？もしくはギャルゲじゃあるまいし、かア？

まア．．．駄猫はずっと「パルパルパルパルパルパル．．．」  
って言ってやがるがア．．．

いやさ．．．実は、こんな美人が幼なじみで俺は友達が少なくなつたんだよ

大抵は嫉妬してにらんできたり．．．まア、別に怖かねエンだがな．．．

で、まア．．．美人な幼なじみけん友人がいるコトで理不尽な目にあうんだよ．．．

でも．．．さ．．．おしゃれた姿見たらもう全部吹きとんじまう．．．

だから俺的にはやっぱり幸せだな！

翔子

「．．．明久お待たせ」

明久

「待ってないよ」

翔子

「．．．それじゃ、何処行く？」

明久

「んゝ．．．映画でも見にいこつかア」

翔子

「・・・分かった」

康太

「・・・ただいま吉井が家から霧島翔子をつれて出てきた」

雄二

『取り敢えずつけてくれ』

康太

「・・・了解」

雄二

『頼んだぞ』

明久

「さて・・・と、今日は僕のおごりだからね！」

翔子

「・・・いつもそうだけど、お金大丈夫なの？」

明久

「ゲームとかはネット内のフリゲとかをしてるから、こつこつと自由に使えるんだよ」

翔子

「・・・なら、アレみたい」

明久

「どれどれ？」

・・・地獄の黙示録？3時間23分・・・？

翔子

「其れを二回」

明久

「其れは断固拒否で」

翔子

「・・・明久はひどい」

明久

「ココで6時間も過ごしたくないよ！」

翔子

「・・・なら、明久はどれがいいの？」

明久

「・・・アレかな・・・」

翔子

「・・・ネギま!??」

明久

「・・・もの凄くみなきやいけないようなきがするんだよ・・・」

翔子

「電波?」

- 結局、地獄の黙示録を一回見ました -

明久

「ゲーセンでも行こうか」

翔子

「・・・うん」

さて、地獄の黙示録だけ・・・

なんというかグロかった・・・牛殺されてた・・・

・・・何故翔子ちゃんはアレが見たかったんだろオカ? 謎だ・・・

康太

「・・・ただいま地獄の黙示録を見ている」

雄二

『何故に？』

康太

「・・・分からない」

雄二

『報告有り難う、引き続き後をつけてくれ』

康太

「了解」

明久

「ゲーセンと言えばクレーンゲームだね」

翔子

「・・・そうなの？」

明久

「そうなんだよ・・・さて、翔子ちゃんはどれが欲しい？」

翔子

「・・・あの二つ」

明久

「了解、了解つとオ」

- ウイーン・・・ガ・・・ガガガガ・・・ガコン -

明久

「よっしゃ、同時ゲット!」

翔子

「・・・片方は明久の」

明久

「おそろいだね?」

翔子

「・・・うん!」

康太

「・・・クレーンゲームをして・・・ブハッ!」

雄二

『どうした!?!』

康太

「・・・なんでも無い」

雄二

『そ、そうか・・・』

康太

「引き続きスニークキングする」

- 6時まで遊びました -

明久

「ようし、ンじゃ飯食べにいこっか」

翔子

「・・・そんなことまでいいの？」

明久

「うん」

翔子



「・・・有り難う」

明久

「いやいや」

ココまで来たら康太もついてこれない筈・・・  
アイツが金を持っているはずねエしなア・・・それにしても帰った  
ら雄二の阿呆はコロス

明久

「じゃ、いこっか」

翔子

「・・・うん」

康太

「・・・これ以上はムリ」

雄二

『ご苦労だった・・・コレでアイツの弱みを』

康太

「・・・気をつける」

- 夕食食べました -

明久

「ふう、おなかいっぱい」

翔子

「・・・うん・・・あ、あの明久」

明久

「何かな？」

翔子

「今日は有り難う」

- チュ -

明久

「・・・へ？」

翔子

「また明日」



## 番外編 翔子と明久と二人デート（後書き）

駄猫くく案外弱い拓也くんw

拓也くく・・・（ボー）

駄猫くくうわ！？張り合いなさすぎ・・・

てなわけで今回は咲夜さんに来ていただき・・・ませんでしたが

悠人くんに来ていただきました！

悠人くくまあ、紹介に預かったとおり悠人や

駄猫くくで、最近どう？

悠人くく調子ええで！

駄猫くくそりゃ良かった

悠人くくうむ

駄猫くくんじゃ、そんな調子の良い悠人くんの次回予告まで・・・

3・2・1・Q

悠人くくえゝ次回は本編や！期待しときや！

駄猫くく期待しないでくださいw

悠人くくンで、F a t e / s t a y n i g h t - ちよつと異世

界までお使いしてきた英雄

くん - もよろしく頼むわ！

駄猫くくハイ、カット！では次回もよろしく願いします！

**第五問 作戦会議・・・雄二の地獄もあるよ！（前書き）**

駄猫くく今回は作戦会議だけではなく、Dクラス戦がおわってから  
が本編な・・・

おまけが本編回ですw

拓也くくついにあの秘密兵器と雄二のヒロインがでるんだな

駄猫くくでは・・・本編どうぞ！

第五問 作戦会議・・・雄二の地獄もあるよ！

明久

「さて、そんなこんなで屋上だよ」

雄二

「また明久が変になりやがった・・・」

康太

「・・・大丈夫か？」

明久

「・・・電波を受け取っちゃったんだから仕方無いじゃないか・・・」

「

本気で電波だけは回避出来ないからな・・・  
どオしたらいいんだろオな・・・

秀吉

「大丈夫じゃ、明久・・・わしにも時々くるからな・・・」

明久

「秀吉・・・！」

- ガシッ -

瑞希

「・・・何故か絵になるんですよね・・・あの二人」

美波

「本当ね・・・さながら美男美女のカップルね・・・」

雄二

「お前ら・・・其れAクラス代表相手には絶対言つなよ?」

美波

「?・・・まあ、わかったわ」

雄二

「おい、そろそろ会議はじめんぞ」

明久

「あ、うん了解」

秀吉

「分かったのじゃ」

さて・・・

明久

「僕がキチンと今日の午後にDクラスに開戦予定と告げてきたよ」

雄二

「よし!」

秀吉

「なら、先に昼ご飯と言つことじゃな?」

あ、そおいや俺はちゃんご飯は2食喰つてるからなア?



え？3食じゃないのかって？

・・・いや、前喰ってたら変に頭が回ったからリミッター外す時以外は2食にするよオにしたンだよ

例えばだなア・・・株弄くるときとか、今回みたいな試召戦争とかだなア・・・

ちゃんと言は金を使ってるンだぜエ？翔子には仕送り分だけみたいなこといったけど

俺は完全に自分で稼いでるぜエ？大体年に　億ぐらい

雄二

「おつと俺はちょっと用事あるから先にくつといてくれ」

明久

「なるほど、愛妻弁当だね・・・でも、その必要はないよ（ニカア）」

雄二

「・・・・・・！？（ゾゾゾゾゾゾゾ）」

ささやかな仕返しさ・・・ちゃっかりメールで天上院に浮気したっていったしなア

さて・・・・・・どオなるかなア？

・ズガン！・

優佳

「明久君連絡有り難う・・・やあ、雄二くん・・・さて、こういうコトか説明してくれるかな？ああ！？ねえまずさ、鼻の下のばしてたってどういうコトかな？其処のちょっと巨乳な女の子に鼻のばしてたって聞かし・・・明久君が言うには翔子ちゃんの婚姻届も

つてたつて言うじゃないか・・・ねえどういうことかな？早く教えてくれないかな？そうじゃないと流石の僕でも切れるよ？駄雄二くんふるえてるのかい？まあ、自分が悪いのに謝らないっていうのもどうかと思うしね・・・駄雄二くんはそこんところどう思うのかな？」

・・・怖エよ・・・まさかだったよ・・・

ココまで来るのか・・・あのお嬢様みたいなのがこういう風になるのか・・・

雄二

「あ、あれは・・・」

優佳

「アレは何かな？ねえ？なんなの？早くしないと絶望先生のごとく吊すよ？早く答えてよ」

雄二

「は、はい・・・あれは・・・明久を脅すためにしました！」

優佳

「そうかい・・・で？そのちよつと巨乳な娘に鼻を伸ばしてた云々はどのようなかな？早く教えてくれないかな？答えられないんだつたら・・・駄雄二の家にプチプチ送るからね」

・・・止めてあげてくれ・・・呼んだの俺だけど涙が止まらないぜエ・・・

しかも、皆ふるえてやがるし・・・ココは俺が止めるか・・・

明久

「ね、ねえ優佳ちゃん」

優佳

「何かな？明久君？」

明久

「そろそろ止めてあげて・・・見てられなくなるし・・・ね？」

あと、ミーティングとかあるし・・・ね？今日の所は許してあげて？」

優佳

「・・・まあ、君がいうなら・・・駄雄二君・・・次は無いからね？」

雄二

「お、おう・・・」

優佳

「それと弁当だよ」

雄二

「す、すまねえ・・・」

・皆立ち直るまでカット・

雄二

「まあ・・・何だ？すまなかった」

秀吉

「わしらも気絶しかけておったし・・・いまいち何がおこったのか覚えておらんのじゃよ」

康太

「・・・（コクコク）」

美波

「・・・あ、そういえば一つ気になってたんだけど、どうしてDクラスなの？

段階を踏んでいくならEクラスだろうし、勝負に出るならAクラスでしょ？」

雄二

「考え有つてのことだしな」

明久

「どうせさ、Eクラスを攻めない理由は簡単だし戦うまでもない相手だからでしょ？」

雄二

「そうだ、で康太・・・オマエの周りにいる面子を見てみる」

康太

「・・・？」

雄二

「で、どうだ？」

・・・その聞き方どうなんだろうな・・・

康太

「・・・美少女が三人と馬鹿が一人と最恐が一人」

・・・コレはフリなのかねエ？

明久

「誰が馬鹿だって（ニコツ）」

雄二

「誰が美少女だ！」

康太

「（ブンブンブン）」

うわァ・・・やっぱ慌てるよな・・・

ま、取り敢えず話しを進めるかァ・・・

明久

「時間が勿体ないしそろそろ必要なこと言おうよ、雄二」

雄二

「だな・・・ま、要するにだ・・・明久は・・・バグだとして」

誰がバグだ・・・誰が・・・

雄二

「姫路がいるし今、正面からやり合ってもEクラスには勝てる  
Aクラスが目標である以上はEクラスなんかと戦っても意味が無  
いってことだ」

明久

「初陣だし、派手にやって今後の景気づけにしたいンでしょ？」

雄二

「ま、そう言うことだ」

明久

「ま、どうせ打倒Aクラスのプロセスなンでしょ？」

雄二

「そうだ・・・てか、明久は俺が言いたいことを横取りするよな・・・」

明久

「まア、いいじゃん」

康太

「・・・勝てるのか？」

明久

「ハハハ・・・負けるわけないじゃん・・・」

雄二

「俺は本気で策を考えるし、お前らが俺たちに協力してくれるなら絶対に勝てる」

明久・雄二

「「いいか？お前ら、ウチのクラスは最強だ！」」

美波

「・・・いいわね！面白そうじゃない！」

秀吉

「そうじゃな、Aクラスの連中を引きずり落としてやるかの！」

康太

「・・・（グッ）」

瑞希

「ガンバります！」

打倒Aクラス・・・普通のヤツ達からしたら可笑しくなったよオにしか聞こえねエ・・・

だが・・・0%と100%はねエ・・・やる前に諦めるのは本当の馬鹿のすること・・・

さア・・・本気をだすかねエ・・・

- Dクラス戦明久の出番までカット! -

明久

「やっと出番かア・・・さて、殺るか」

雄二

「いっちょ暴れてきな」

明久

「了解ってなア・・・さて行くぜエ！」

-ズドン！-

明久

「おい、先生！Fクラス吉井明久がココに居るDクラス全員に戦闘を挑む！」

科学教師

「承認します！」

明久

サモン  
「試獣召喚！」



科学

吉井明久 9999点

VS

Dクラス20人 2352点

DクラスA

「・・・は？」

明久

「ここから先は補修室まで一方通行だア・・・とつとと逝きやがれ  
エエエエ!!」

-ズガン-

鉄人

「戦死者は補修!!」

明久

「・・・クカ・・・クカカカカカ! いいねエ、いいねエ、最高だねエ!

久々の・・・まア生身じゃねエけど・・・戦闘は楽しいねエ!!」

DクラスZ

「・・・まるで死神だな・・・」

Dクラス a

「そうね・・・」

清水

「ひ、ひるまず行ってください!」

明久

「効くかよオ!・・・島田ア!雄二と一緒にDクラスの首とりやがれエ!」

美波

「わ、わかったわ・・・」

- 明久が掃除し終わるまで・・・カット! -

明久

「ふう・・・終わったア」

おつと・・・姫路さんの声聞こえたし終わったかア?  
男共のうるせエ声も聞こえたしなア  
さて、俺も向こうに行くかア

- 到着までカット -

明久

「よォ雄二」

雄二

「・・・今はそっちか・・・」

明久

「どオも興奮が収まらなくてなァ・・・」

平賀

「・・・まさか姫路さんがFクラスだなんて……信じられん」

瑞希

「さ、さっきはすみませんでした」

平賀

「いや、謝ることはないよ、全てFクラスを甘く見ていた俺達が悪いんだ

・・・それとあの吉井君があのだ数だなんて・・・」

明久

「アレがMAX表示できる数値らしいからなア・・・」

平賀

「そ、そうかい・・・さて、ルールに則ってクラスを明け渡そう  
ただ、今日はこんな時間だから、作業は明日で良いか？」

雄二

「いや、その必要はない」

明久

「だな」

平賀

「・・・え？」

明久

「Dクラスの設備には一切手を出すつもりはねエゼ？  
俺らの最終地点はAクラスだしな」

雄二

「その代わりと言ってはなんだが、二つ条件がある」

平賀

「・・・まあ、ウチとしてはありがたいんだが・・・何をしたらいいんだ？」

雄二

「そんな大したことじゃない  
一つ目は、俺が指示を出したら、窓の外にあるアレを動かさなく

してもらいたい・・・それだけだ」

平賀

「Bクラスの室外機か」

雄二

「設備を壊すんだから当然教師にある程度睨まれる可能性もあるとは思うが、

そう悪い取引じゃないだろう？」

平賀

「それはこちらとしては願ってもない提案だが、なぜそんなことを？」

雄二

「次のBクラス戦の作戦に必要なんでな」

・・・さて

明久

「僕からも一ついいかい？」

平賀

「何かな？」

明久

「僕のことを広めないで欲しい」

平賀

「・・・なるほどね・・・わかった」

明久

「有り難う」

雄二

「もう、いいか？ タイミングについては後日詳しく話す

二つ目は三ヶ月間Fクラスに宣戦布告しないことだ、今日はもう行っていていいぞ」

平賀

「ああ、ありがとう・・・二つ目の条件も呑むよ、お前らがAクラスに勝てるように願っているよ」

雄二

「無理するなよ、勝てつこないと思っているだろう？」

平賀

「いや、彼がいるからね・・・」

雄二

「アイツは普通Fじゃないしな・・・

よし、皆！今日はご苦労だった！

明日は消費した点数の補給を行うから、今日のところは帰ってゆっくりと休んでくれ！解散」

- おまけ -

雄二

「ただい．．．何だ？この腐臭は．．．」

雪乃

「．．．」

- プチプチプチプチプチプチプチ -

雄二

「何だ！？このヒドイ空間は！？」

雪乃

「・・・」

・ぷちぷちぷちぷちぷち・

雄二

「・・・何だ？これは・・・」

え〜と？神楽？誰だそれ？え〜と・・・

『人の恋路を邪魔しようとする人はスレイプニルに引かれればいいんだよ！』？

・・・何がいつてるんだ？・・・誰だ・・・こんな惨いことをするやつは！？」

そこにはいつてたのは大量の梱包材のプチプチ・・・と腐臭

雪乃

「あ、おかえりなさい・・・ご飯出来てるわよ」

雄二

「あ、ああ・・・」

・・・見た目は普通の飯・・・大丈夫の・・・箸

雄二

「・・・いただきます」

モグモグ・・・うむ・・・中々おいし・・・」

・ボタン・





**第五問 作戦会議・・・雄二の地獄もあるよ！（後書き）**

駄猫くくというわけで、裂やんさんトコの睦月くんから貰った

梱包材のプチプチを大量に、腐ったザリガニをきちんと渡しました

拓也くく・・・雄二大丈夫か？

駄猫くく大丈夫ギャグ補正かかるからb

拓也くく今回は本気で雄二不幸回だなア

駄猫くくま、ええじゃないか・・・さて次回は？

拓也くくBクラス戦手前までだなア

駄猫くく次回も頑張ります！では！

## 第六問 次に目を覚ませば元に戻るから

おつとオ．．．今日はもう一回更新すんのかあのバカ．．．  
しかも課題終わってないとか言ってたのによオ．．．無茶しやがつ  
てエ．．．

さて、Dクラス戦が終わって夜だ．．．

さて、今日は翔子ちゃんがウチに來ているんだが．．．

あの後雄二が音信不通なんだ．．．どうなってんだろオな．．．

翔子

「．．．明久．．．ご飯出來た」

明久

「ン．．．有り難うね」

翔子

「．．．ううん」

- 飯中はカット! -

翔子

「・・・そう言えばあの金髪の人どうなったの？」

明久

「失禁して、何か泣いてどっかいったんだよ」

翔子

「・・・」

明久

「まア、そオいう感じになるよねエ」

翔子

「・・・其れと今、女子高生が何者かに襲われてるらしい」

明久

「・・・今日は僕ン家に泊まってってね・・・」

あ、そオだ・・・ちよつとコンビニでWiiポイント買ってくるよ」

翔子

「・・・いつてらっしやい」

明久

「ちゃんと鍵しめといてね」

翔子

「・・・うん」

さて・・・久々に哀川拓也の時と同じコトでもするか・・・  
セイギノミカタってなア・・・

明久

「さて・・・と、適当に・・・とアレは秀吉か？」

秀吉？

「・・・アナタ誰？」

明久

「・・・若干声違うから・・・ああ！姉の方が」

木下姉

「・・・そっいうアナタは吉井君ね？代表からよく話を聞いてるわ」

明久

「へエ・・・あ、今、女子高生が何者かに襲われてるらしいから気  
いつけるよ？」

木下姉

「あ、うん、忠告感謝するわ」

凜と同じ臭いがする・・・

・・・あゝなるほど！猫かぶってンのか！！

明久

「ンじゃ、氣イつけて帰れよオ」

さて、見回り再開かねエ

後、見回ってないところつつたら・・・学校かア？

・・・まア行くっきゃねエなア・・・

・・・でも、鉄人いるから大丈夫じゃねエ？・・・だよねエ・・・

あの人多分スネークだしなア・・・

- 数十分後 -

『キャアアアア！』

叫び声！？

聞こえた方向は・・・アツチだな・・・  
久々に翼でも広げてみるかア・・・

- バサツ -

・・・やっぱ白いな・・・

さて・・・と・・・行くぜエ！

・・・おつとオ・・・て・・・ちょ！？金髪じゃねエか！！？

明久

「その女性から離れろ！！」

金髪

「何！？」

・ズザザザザ・

明久

「・・・俺参上」

女性

「・・・だ、誰！？え？何で翼！？」

明久

「メルヘンで悪かったなア・・・はア・・・コンプレックスなのによオ・・・さて、その女性・・・取り敢えず逃げる！全力で・・・お前・・・最低だなア・・・何してンだよ・・・彼処で失禁してそっから逃げ出して、ンで？次は女子高生を襲う？巫山戯てンじゃねエよ・・・もオバカじゃすまねエ」クズ吉井明久だなア・・・さて、たとえ相手が神様だろうとも、俺の名前は哀川拓也・・・俺の前では悪魔だつて全席指定、正々堂々手段を選ばず真っ向から不意討つてご覧に入れましょオ・・・さア・・・殺して解して並べて揃えて晒してヤンよ」

女性

「わ、わかった」

金髪

「ッへ・・・俺の剣製にかゝ・・・グガアアア!？」

「グサツ・・・グサグサグサグサ」

拓也<sup>明久</sup>

「あア？何がお前の剣製だア？剣製はエミヤシロウのみが持つエミヤシロウだけの生き様なんだよ・・・もオ、クズにやる言葉はねエ・・・まア、許すだの許さないだの、そういう問題じゃなかったなア・・・許容云々以前の問題なんだよ、それはよオ・・・犯すコトは悪だ、断言しよオ・・・人を犯したいという気持ちは史上最低の劣情だ・・・性欲？はア？巫山戯ンな・・・他人の心の死を望み祈り願ひ念じる行為は、どうやっても救いようのない悪意だぜエ？クズが・・・あア？何故って顔してやがるなア・・・なぜならそれは償えない罪だからなア・・・罪も贖罪も出来ない罪悪に、許容も何もへつたくれも、そんなことはこの俺の知ったことじゃないなア・・・人を犯した人間はたった一人の例外すらなく地獄の底辺まで堕ち沈むべきなんだ・・・」

金髪

「えらそうに・・・死ね!」

拓也<sup>明久</sup>

「お前がな」

「グギヤ」



金髪

「う、腕があああああああああ！」

拓也<sup>明久</sup>

「・・・もオ、いい加減楽になれ・・・」

「ブチャッ」

明久

「ただいまア」

翔子

「・・・お帰り・・・お風呂一緒に入る？」

明久

「なんでなのかな!？」

翔子

「・・・どこか寂しそうな顔してるから・・・」

明久

「あ・・・」

翔子

「・・・包容力が欲しいのかな？って」

明久

「それ、ちがつ」

翔子

「違うの？」

明久

「その考え・・・」

- おまけ -

雄二

「ッハ！？」

優佳

「やっと起きたんだね・・・心配したんだよ？それにしてもこんなラブレター初めてだよ・・・僕待ってるからね？君が18になるの

h  
」

起きたらこの状況・・・ナニコレ怖い・・・  
だって、ついさっきまで川が見えてたんだぞ！ンで次みたのが優佳  
って・・・

しかもラブレター！？

雄二

「え？いきなりなんだ！？」

優佳

「コレは君の声じゃないか」

雄二

「え？」

優佳

「ほら」

- カチッ -

秀吉（雄二）

『優佳愛してる。俺が18歳になったら籍を入れよう。だから俺と  
結婚してくれ！』

え？俺こんなこと言っただ覚えないぞ！？

雄二

「・・・（呆然）」

優佳

「そうだ、つかれてるんだね・・・また、明日来るよ」

- ガチャ・・・ボタン -

雄二

「畜生・・・」

明久・雄二

何でああああああああああああああああああああ！

？  
「」

## 第六問 次に目を覚ませば元に戻るから（後書き）

駄猫くくさて・・・雄二ザマア

拓也くく翔子ちゃんってどこか抜けてるよなア・・・

駄猫くくそだね・・・直感はすごいだろうね、寂しそうって当てたしww

拓也くく確かにな・・・

駄猫くくしかし、其処に惚れてるんだよね

拓也くくほつとけ

駄猫くくそれにしても良い感じにお二方集中力が散るでしょうねw

拓也くくそれBクラス時の・・・

駄猫くくうん、そうだよ・・・姫路さんのラブレターは無いからね

拓也くく・・・お前も考えて書いてンだな・・・

駄猫くくうつさい・・・次はBクラス戦です・・・では！

## 第七問 結局目を覚まして何も変わらなかった

ハア・・・どオも、吉井明久だぜエ・・・

しつかしまア・・・課題やらずに前回更新して結局一睡もせずに学校行つた駄猫が

性懲りもなく又やろうとしてやがるンだが、どオ思う？

TPPに負けてたまるかア・・・つってたし・・・其れもあンのかねエ？

さて、昨日は疲れた・・・何故か布団の中に翔子ちゃん入ってきて驚愕したりしてたら

一睡も出来なかった・・・今日Bクラスに挑もうつってンのによオ・・・

集中力が続かねエだろオナア・・・

-ガラガラ-

明久

「・・・おはよう雄二」

雄二

「・・・ああ、おはよう明久」

明久

「・・・どうしたの？寝れてるよ？」

雄二

「・・・いや、どこかの誰かのお陰で将来の約束が決行されかけてるんだよ

そのお陰で昨日は悪夢悪夢の連続で目の下に隈が出来ちまうぐら

いなんだよ・・・」

明久

「・・・雄二も辛かったんだね・・・僕もアレだよ？変な勘違いされて・・・」

- ガシッ -

秀吉

「・・・来て早々スゴイコトになっておるの・・・」

康太

「・・・二人共FFFにやられかけてたけど今日ばかりは助けた、彼処まで甦れてるのにその上に暴行にいったら・・・きつと明久は覚醒すると思う」

秀吉

「そうじゃのう」

・・・二人の優しさのお陰で目から汗が・・・  
きつとアレだね・・・うんきつとそオいうことなんだ・・・  
だから・・・

明久

「同情の目は止めて・・・」

雄二

「余計俺達が惨めになる・・・」

明久

「取り敢えず回復テストだね・・・」

- テスト終了までcut! -

雄二

「さて皆、総合科目テストご苦労だった・・・午後はBクラスとの  
試召戦争に突入する予定だが、  
殺る気は充分か？」

Fクラス共

『『おおおおおおおおおおおおおおおおおおお!!!』』

うはア・・・全然テンションさがらねエなア・・・  
最悪又火つけ直すのかア鬱だア・・・って思ってたのによオ・・・  
ま、コレが良いところなんだろうオナア・・・  
唯のバカ共だけど・・・

雄二

「今回の戦闘は敵を教室に押し込むことが重要になる・・・  
その為、開戦直後の渡り廊下戦は絶対に負ける訳にはいかない」

Fクラス共

『『おおおおおおおおおおおおおおおおおおお!!!』』  
おおおおおおお!!!』』



唯・・・寝てないから頭に響く・・・  
言ったらモチベーション下がるからいわねエけどなア・・・

雄二

「前線部隊は姫路瑞希に指揮を取ってもらう・・・野郎共、きつちり死んでこい！」

瑞希

「がんばりますっ」

Fクラス共

『おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおお！！』

・・・コレは気にちゃ駄目だなア・・・  
本気で気にし始めたならめんどくさいからなア・・・

- キーンコーンカーンコーン -

明久

「よし！行くよ！！目指すはシステムデスクだア！！！」

康太

「（シンシン）・・・」

明久

「どオしたの、康太？」

康太

「・・・俺は何をしたらいい？」

雄二

「康太、Bクラスの情報を頼む」

康太

「・・・Bクラス代表は根本恭二、基本的にBクラスの生徒達は根本に反感を抱いている」

明久

「なるほどね・・・あ、そオだ！」

康太・雄二

「「？」」

明久

「根本ってCクラス代表のヒステリックと付き合って無かったわけ？」

雄二

「・・・と言うことはCクラスにも注意した方が良いのか・・・」

康太

「・・・情報を集めておく」

明久

「よろしく頼むよ」

康太

「（つぐ）」

・シュバツ・

・・・ドンドン康太って忍者化してねエかア？

最終的に裏の世界でもいきてけるよオな感じになるとかになったら  
笑えねエぞオ？

BクラスA

「すまない・・・Bクラスの使者だが、代表はいるか？」

雄二

「俺がFクラスの代表だが？Bクラスが何か用か？」

BクラスA

「うちの代表が協定を結びたいと言っているんだ、悪いがBクラス  
に来て貰えないだろうか？」

雄二

「了解だ、横田は俺に着いてきてくれ・・・明久・・・取り敢えず、  
クラスをみはつといてくれ」

明久

「オーケエ」

- 取り敢えず動きが有るまで・・・カット! -

明久

「ふアあ・・・眠イなア・・・」

・・・戸の向こうに二人程の気配を感じるな・・・

つつウコトは、秀吉達が、卑怯者達か・・・卑怯者なら・・・殺るか・・・

鬱憤ばらしにでも・・・なア・・・

さて・・・誰だア？

- ガラガラ -

BクラスB

「・・・ココがFクラスだよな？」

明久

「そオだよオ・・・Bクラスの生徒クン？」

BクラスC

「うち・・・誰か居たのか・・・まあ、どうせFクラスのバカだし関係ないか・・・」

明久

「・・・さてと・・・鉄人先生エ居るよなア？」

西村

「俺は西村だ・・・」

明久

「取り敢えず、Fクラス吉井明久がBクラス二人組に保健体育で勝負を挑む」

西村

「承認した」

明久

サモン  
「試獣召喚！！」

BクラスB・C

「「つち・・・試獣召喚！！」」  
サモン

保健体育

吉井明久

9999点

VS

BクラスB・C

500点

BクラスB・C

「「・・・は？」」

明久

「さっさと楽になれ」

「ズシャッ！」

西村

「戦死者は補修！！」

明久

「残念でしたア・・・グッバイ」

「・・・多分コレで一段落だろオし・・・寝るか！」

「雄二帰還まで・・・カット！」

雄二

「戻ったぞ・・・って寝てやがる・・・」

秀吉

「・・・可愛い寝顔しておるの・・・」

康太

「・・・」

- パシャパシャパシャ -

明久

「ン・・・ンン・・・ふにやアア・・・」

秀吉

「っ!？」

「・・・ああ・・・よく寝たア・・・て秀吉のヤツ鼻なんで押さえてるんだア？」

寝起きの明久くんは激しくエロイです

「・・・今とつてもいらねエテロップが流れたよオナ・・・」

秀吉

「ムツツリーニ・・・後で三枚買わせて貰うのじゃ」

康太

「・・・まいどあり」

明久

「・・・で？どなったんだア？」

雄二

「しゃべり方・・・まあ、いいか・・・」

4時までに決着がつかなかったら戦況をそのままにして続きは明日午前9時に持ち越し

その間は試召戦争に関わる一切の行為を禁止する・・・ってな」

明久

「なるほどねエ・・・多分裏あんどぞオ？気イつけとけ」

．．．to be continue



第七問 結局目を覚まして何も変わらなかった（後書き）

駄猫くく今日は何とか寝れるかな・・・？

拓也くく昨日のうちにやつとけよ・・・

駄猫くく昨日はしんどかったんだお・・・

拓也くく次回はBクラス戦後編かア？

駄猫くく出来たら今日のうちに・・・

拓也くく止めとけバカ・・・

駄猫くくバカは無くない？

拓也くく・・・次回も頑張るよオダア・・・また見てやってくれ

駄猫くくえ？無視！？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9133v/>

---

哀川くんの吉井明久戦記

2011年11月17日19時01分発行